

橋正良氏が撮影したものである。佐潟は新潟市の西部に位置する砂丘湖で、ラムサール条約登録湿地にもなっており、自然環境にはきわめて恵まれている。水草相にも恵まれ、ヒシ類はヒシ、オニビシ、ヒメビシが記録されている。水鳥類も多く、ガン・ハクチョウ類の越冬地として知られている。この写真は、佐潟で就峙し、朝、採食のために水田地帯に飛び立つコハクチョウを撮影したものの一枚である。佐潟は水深が浅く、就峙するコハクチョウの腹部に、ヒシ類の種子が付着することも十分考えられるであろう、このコハクチョウの胸に付着している種子は、大きさから考えて、オニビシやヒメビシではなく、ヒシである可能性が高い。水鳥による水草の種子散布に関しては、知見が

決定的に不足している。わずかな観察例でも発表し、事例を集める必要があるものと思われる。

快く写真を提供いただいた高橋正良氏、いろいろ情報を教えていただいた中西弘樹氏、浜端悦治氏に厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 浜端悦治, 1999. 湖沼における水草の現状と保全. 淡水生物の保全生態学 pp.171-183, 信山社サイテック, 東京.
- 中西弘樹, 1994. 種子ひろがる一種子散布の生態学. 平凡社, 東京.
- 上田恵介, 1999. 種子散布<助けあいの進化論1>. 築地書館, 東京.

福島県裏磐梯柳沼のミクリについて

星 一 彰*

環境庁による危急種の1つとされているミクリ類のミクリは、福島県内では浜通り、中通り、会津（県内を3地区に分けることが多く、植物分布上から照葉樹林帯、スズタケイヌブナ群落、チシマザサブナ群落と区別することもできる）と、ほぼ全县に散在的に分布している。

オーバーユースが顕在化している日本の国立公園の中でも、磐梯朝日国立公園の裏磐梯五色沼遊歩道は、特に入山者の多いことでよく知られている場所である。五色沼遊歩道に沿った多くの湖沼群の中で、柳沼にのみミクリの生育が認められる（多くの湖沼は酸性となっているが、柳沼は水系が異なりほぼ中性となっている）。

紅葉シーズンには、バックの紅葉から記念撮影のため、踏み込みが著しく、一時は、その絶滅が心配されていた。環境庁による緑のダイヤモンド計画の一環として、本年7月に、その保護対策と



図1. 柳沼のミクリ (2000年8月25日撮影)

して、木材による土砂流失止と保護柵（図1）がつけられた。全国各地で貴重な水生植物が失われつつある時、国立公園内の水生植物保護策の1事例として報告する。

水草研諸氏の指導と助言を期待いたします。

(*福島県自然保護協会)